令和元年度事業活動報告

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和２年５月２５日

1. 井川活性化プロジェクト

活性化のための舞台装置は整っても、地元で主役を演じる人材が見当たらないという要因で、全ての活動が動かなかった。

1. 再生可能エネルギー地産地消推進事業（補助金公募）

・森林資源の活用——木材チップ工場の可能性を探ったが、

最終的には木材供給に困難性があり、挫折。

* 水資源の活用——小水力発電の可能性を打診したが、

水力量に困難性があり、挫折。

1. 映写会

「おだやかな革命」を考えたが、１）が進展しな

　　　かったので実施できなかった。

1. 井川ビジョン検討（保留）

現地活動が進展しなかったので、保留のまま推移した。

　　「地域の未来は、住民自身が真剣に考えないと、暮らし

　　の存続すら難しい」という人口減少時代を迎えて、“行政

　　が何とかしてくれる“という望みはない、という現実を

　　住民が認識する必要がある。井川住民はリニア工事に期

　　待をかけているように見える。

1. 川根ネイチャーガイド養成プログラム
2. 樹木学；講師：飯尾淳弘（静岡大准教授）学習予定地点の林道が土砂崩れで、１年間補修不能のため未開催。
3. 川根案内人協会結成支援協力

構想段階で結成に至らなかった。

３．登山ルート整備活動（光岳）：

　　　１）昨年に引き続き、今年も実施された。

　　　２）メンバー：古林鉄平、古林輝晟、片山陽介、高田麟太郎、

　　　　　　　　　　市川晢也

　　　３）行動：１日—畑薙ダムー茶臼岳—光小屋、２日：百沢の頭

　　　　　—信濃俣—ブナ沢のコル、３日：コルー大根沢山—白樺荘

1. 標識：測量用テープを立木に結ぶ作業を主体に行った。
2. 今後の課題：寸又峡から光岳を往復する。迷いやすい箇所に標識を設置する。避難小屋の設置構想も考慮する。

４.植林・育林活動報告：（画像①植林風景・②植林後リボン）

1. 藁科川中流、坂の上左岸（大平見標高７５０ｍ）
2. 植林第二次計画実施した。２０２０年３月１５日（日）

ボランティア５０人がコナラ１０００本、他の広葉樹１０００本（内、山栗７００本）植樹した。

1. 未来財団の助成金（静岡トヨタ）３０万円は主として苗木代に充当された。
2. 育林（下草刈り）：９月１２日（土）８人で実施した。

５、６、７、８月実施できなかったの

　　　　　　　　で、草丈が伸びていた。

５高校山岳部との懇談（開始できず）：（画像：南アルプス学１例）

１）“山は博物館だ”、“知的登山の勧め”をキャッチフレーズに「南アルプス学概論」原稿pptスライドを作成した。

２）対象校：靜高山岳部、清水東高山岳部、藤枝東高山

　　岳部、浜北高山岳部。

６情報公開サイト：日本財団：canpanの星の数３以上を求められ、

　　　星★★★★★５個を獲得できた。それを基に、ふじのくに未

　　　来財団の助成金申請が可能となり、静岡トヨタのハイブリッ

　　　ド基金から３００，０００円の助成金を得て、苗木代に当て

　　　た。

７HPのリニューアル完成（画像：表紙）

古林理事の尽力で今後のHPのタイムリーな更新に新たな道が開けた。

８三峰川電力（みぶがわ）の机上調査依頼

南アルプスの麓、長根県側を流れる三峰川の水力発電に実績のある電力会社のコンサルタント部に無料調査依頼した。

結果：大井川流域で小水力発電事業として、取水できる支流や

　　　沢筋を机上データーから調査してもらったが、中部電力

　　　の取水が徹底していて適地は見つからなかった。従って

　　　交渉は打ち切った。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上